



# AJCE



## ASSOCIATION OF JAPANESE CONSULTING ENGINEERS

### FIDIC MEMBER ASSOCIATION

Bunkoh-doh Bldg., 3-16-4 Ueno, Taito-ku, Tokyo, 110-0005 Japan

TEL +81(3)3839-8471 FAX +81(3)3839-8472

E-mail [info@ajce.or.jp](mailto:info@ajce.or.jp) URL [www.ajce.or.jp](http://www.ajce.or.jp)

平成 25 年 10 月吉日

関係者 各位

(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会

会長 廣瀬 典昭

技術交流委員会委員長 田中 宏

### AJCE 技術交流セミナー2013

### エネルギー・災害対策・鉄道分野におけるトピック

### ご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は当協会活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE)は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家であるコンサルティング・エンジニアの品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り、海外コンサルティング・エンジニアとの技術交流およびその成果の普及に関する事業を行い、コンサルティング・エンジニアの技術の発展と科学技術の振興を通して広く社会に貢献することを目的として活動しております。

技術交流委員会は異種技術の交流とコンサルティング・エンジニアの資質向上・業務開発を目的に活動を続けております。

活動の一環としてこのたび、下記のプログラムにて技術交流セミナーを開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

皆様のご参加をお待ちしております。

敬具

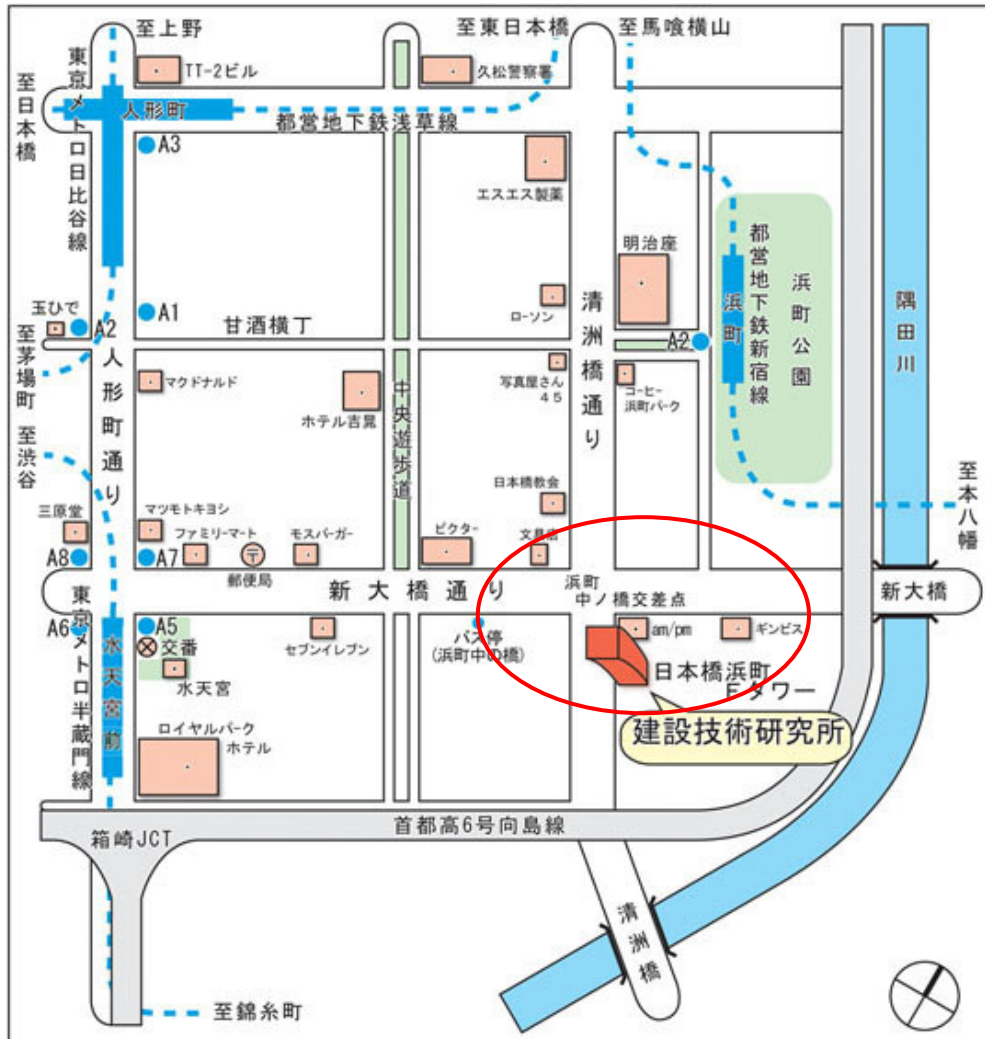
## 記

1. 日 時 平成 25 年 11 月 13 日 (水) 14:00 ~ 17:00 (受付: 13:30 ~)
2. 会 場 (株)建設技術研究所 10 階 会議室 (別紙地図参照)  
住所: 〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1 (日本橋浜町 F タワー)  
電話: 03 (3668) 0451
3. 定 員 40 名 (申込み先着順)
4. プログラム  
13:30 - 14:00 受付  
司会: AJCE 監事、技術交流委員会委員 花岡 浩  
14:00 - 14:05 開会の辞:  
AJCE 会長 廣瀬 典昭  
14:05 - 14:45 『総合災害対策とその評価』  
(株)建設技術研究所相談役、元 AJCE 会長 石井 弓夫  
14:45 - 15:25 『シェールオイル及びシェールガス』  
大木環境研究所代表 大木 久光  
15:25 - 15:35 - 休憩 -  
15:35 - 16:15 『インド貨物専用鉄道』  
日本工営(株)鉄道事業部長 西野 謙  
16:15 - 16:55 『風力発電』  
AJCE 理事・技術交流委員会委員長 田中 宏  
16:55 - 17:00 閉会の辞:  
AJCE 理事・技術交流委員会委員長 田中 宏
5. 参加費  
AJCE 会員企業 2,000 円 (資料代込み)、一 般 3,000 円 (資料代込み)
6. お申込み方法 申込み用紙に必要事項をご記入の上、  
Fax 03-3839-8472 または [info@ajce.or.jp](mailto:info@ajce.or.jp)にてお申し込み下さい。
7. お振込み先 参加費は、お申込日から 3 営業日以内に下記口座へお振込み下さい。  
振込み先銀行口座 みずほ銀行 上野支店  
口座名 ヨクエキシャダクホウジンニホン公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会 キョウカイ  
口座番号 普通預金 4046471  
お振込み頂きました参加費はご返却できませんのでご了承下さい。
8. 申込み締切り 平成 25 年 11 月 8 日 (金) 必着
9. お問合せ 〒110-0005 東京都台東区上野 3-16-4 (文行堂ビル 3 階)  
(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会事務局  
電話 03-3839-8471  
E - mail : [info@ajce.or.jp](mailto:info@ajce.or.jp)

以上

(株)建設技術研究所 10階 会議室

住所：〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1



東京メトロ	日比谷線	人形町駅	A1 出口	徒歩 9 分
東京メトロ	半蔵門線	水天宮前駅	A5 出口	徒歩 5 分
都営浅草線		人形町駅	A3 出口	徒歩 9 分
都営新宿線		浜町駅	A2 出口	徒歩 4 分

## ～ セミナー講師 ～



### 石井 弓夫 (株)建設技術研究所 相談役

自然災害は自然現象ではなく自然を引き金とした社会現象である。したがって災害対策は社会的に総合的に行なわなければならない。総合災害対策はハードとソフトの融合 点や線ではなく平面的・立体的な配慮 計画を超過する事象への「減災」 住民参加 費用便益に加え、極端事象も考慮した評価が必要である。これらの視点から、総合災害対策とその評価について解説する。

1959年東大土木工学科卒業後(株)建設技術研究所の前身(財)建設技術研究所に入所。以後建設コンサルタントに従事。2010年より同社相談役。1998～2002年AJCE会長、2001～2005年FIDIC理事。



### 大木 久光 大木環境研究所 代表

2011年3月11日の東北地方大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以来、世界のエネルギー政策が大きく変わった。それまで国内エネルギーの25%を占めていた原子力発電を廃止するか継続するか議論百出であるなか、シェールガスは救世主たりうるか？再生可能エネルギーの太陽光、風力利用や地熱が模索されている中で急浮上したシェールガスについて解説する。

1968年3月九州大学工学部採鉱学科を卒業後、4月に三井金属鉱業株式会社へ入社。イタイタイ病問題渦中の神岡鉱山を出発点に資源、鉱害防止と環境保全畑を歩み2007年より現職。NPO法人土壌汚染技術士ネットワーク副理事長、NPO法人除染技術研究開発副理事長。



### 西野 謙 日本工営(株)鉄道事業部長

我が国の円借款で建設中のインド国デリー-ムンバイ間(約1,500キロ)の貨物専用鉄道(DFC)事業は、2017年の完成を目標として進行中である。本事業は全線電化によるコンテナ貨物2段積みの輸送計画に基づいたもので、29,000台/日のトラック輸送を鉄道輸送へシフトすることによるCO<sub>2</sub>削減効果について解説する。

1984年早稲田大学理工学部卒業。同年日本工営に入社し海外エンジニアリングコンサルティング事業に従事。2006年より鉄道部配属となりインドDFCプロジェクトのFS調査に参加。現在は同事業フェーズ2基本設計業務のプロジェクトディレクター。



### 田中 宏 田中宏技術士事務所所長

風力発電は風車を原動機とした発電方式であり、2010年の世界の発電容量は200GWに達し、わが国は2.3GWで、2020年にはこの倍を見込んでいる。設置場所によって陸上風力と洋上風力があり、課題は低コスト化、設置可能地域の拡大、自然環境への適合性、電力の安定化がある。これら風力発電の現状について紹介する。

1961年に北海道大学工学部機械工学科を卒業、同年国鉄に入社し、鉄道車両の管理、鉄道機械類の管理に従事。1987年に国鉄を退社。同年(株)日立製作所に入社し、主として都市開発システムについて従事。1996年に(株)日立製作所退社。現在、AJCE理事、技術交流委員会委員長。工学博士。